

Bリーグは地域活性化に貢献するのか

ープロスポーツが持つ可能性ー

平松 那菜

近年の日本では、少子高齢化やそれに伴う人口減少、地方消滅などの社会課題は多々あるものの、特に地方の衰退は著しく進んでいる。そこで本論文では、地方の衰退に焦点をあて、その衰退の速度を緩めるための施策を検討する。衰退速度を緩める方法として、他の地域から人を集め、地域の良さを伝え、関心を高めることが必要である。地域の祭り等のイベントは、年に一度の特定の時期にしか開催されず一過性に終わってしまい、十分な効果がないように思われる。よって、1年で開催される回数の多いプロスポーツの試合による誘致は、地域活性化のひとつの要因となりうるだろう。

公共事業を実施するための手法の一つとして PPP と PFI がある。PPP は、公共施設等の建設、維持管理、運営等を行政と民間が連携して行うことにより、民間の創意工夫等を活用し、財政資金の効率的使用や行政の効率化等を図るものである。PFI は、1990 年代前半に英国で生まれた、民間の資金と経営能力・技術力（ノウハウ）を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法である。近年このような PPP、PFI の手法は、プロスポーツチームの運営に活用され、官民共同による施設整備の典型例であり、地域経済や地域コミュニティの活性化に寄与している。Bリーグクラブの群馬クレインサンダーズや琉球ゴールデンキングスにおいてはこの手法が具体的に活用されている。

群馬クレインサンダーズでは、〈バスケットで群馬を熱くする〉を理念として掲げ、太田市の人口に合わせた 5,000 人規模の新しいアリーナを創設し、アリーナ内だけでなくアリーナ外でイベントを実施することや試合を開催しない日には市民にアリーナを一般開放することなどで、クラブと地域との結びつきを強めているという特徴があった。琉球ゴールデンキングスでは、〈沖縄をもっと元気に！〉を理念として掲げ、子どもの貧困という沖縄県特有の課題を抱えているため、特に地域の子どものフォーカスをあて、選手やクラブマスコットによる学校訪問やバスケットボール教室などを行い、所得の格差による子どもたちの体験格差が生まれないう、地域の子どもたちとの交流を大切にしているという特徴があった。つまり、群馬クレインサンダーズと琉球ゴールデンキングスの事例で共通するのは、いずれも地方自治体と民間、そして地域住民が連携する官民連携の仕組みや枠組み、制度が構築されており、施設整備や試合などの地域イベントを通して、地域住民がそれらのチームに積極的に関与でき、そのことが地域社会に好影響を与えているという点であった。